

用語の解説

- 出生率 = $\frac{\text{年間の出生数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1000$
- 年齢（階級）別出生率 = $\frac{\text{ある年齢（階級）の母の年間出生数}}{\text{10月1日現在におけるある年齢（階級）の女性人口}} \times 1000$
- 合計特殊出生率 = $\left\{ \frac{\text{母の年齢階級別出生数}}{\text{年齢階級別女性人口}} \right\} 15 \text{歳から} 49 \text{歳までの合計}$
(都道府県及び21大都市は5歳階級で算出し、5倍したものを合計している。) 合計特殊出生率は「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が、その年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。
- 年齢別初婚率 = $\frac{\text{ある年齢の妻の年間初婚件数}}{\text{10月1日現在におけるある年齢の女性人口}} \times 1000$
- 有配偶出生率（国勢調査による配偶関係の「有配偶」「未婚」「死別」「離別」のうち、「有配偶」の女子人口を用いて算出した有配偶女子人口千人に対する嫡出出生数の割合）
$$\text{有配偶出生率} = \frac{\text{嫡出出生数（母の年齢15～49歳）}}{\text{10月1日現在における日本人女子の有配偶人口（15～49歳）}} \times 1,000$$
- 母の年齢階級別有配偶出生率（有配偶出生率を年齢階級でみたもの）
$$\text{母の年齢階級別有配偶出生率} = \frac{\text{母のある年齢階級の嫡出出生数}}{\text{10月1日現在における日本人女子のある年齢階級の有配偶人口}} \times 1,000$$
- 出生順位：同じ母親がこれまで生んだ出生子の総数について数えた順序。
- 累積出生率：出生コーホートで算出した各年齢の出生率を足し上げたもの。同一世代の女性がある年齢までに生んだ子どもの数に相当する。世代ごとにみた出生率である。
- 子を生んでいない女性の割合（%）：同一世代の女性のうち、ある年齢までに子を生んでいない者の割合。
$$\text{子を生んでいない女性の割合（\%）} = (1 - \text{第1子累積出生率}) \times 100$$
- 結婚期間：出生届における「同居を始めたとき」から「生まれたとき」までの期間をいう。ただし、出生届における「同居を始めたとき」は、結婚式を挙げたとき、または、同居を始めたときのうち早いほうを記入することとなっている。
- 妊娠期間 $\left[\begin{array}{l} \text{早期：妊娠満37週未満(259日未満)} \\ \text{正期：妊娠満37週から満42週未満(259日から293日)} \\ \text{過期：妊娠満42週以上(294日以上)} \end{array} \right]$
- 単産：単胎で生まれた出生。
- 複産：双子・三つ子等多胎で生まれた出生。
- 出生性比 = $\frac{\text{年間の男子出生数}}{\text{年間の女子出生数}} \times 100$